

事例研究報告

特別支援学校小学部児童の 給食の摂取量を増やすための支援

対象児童の実態

- ・小学部児童
 - ・歌絵本で童謡を聴くことや、教員と一緒に歌うことが好き。
 - ・カードや言葉（語頭）を使って要求を伝えられる。
 - ・「いや」と言って活動を拒否することがある。
 - ・周囲の環境に刺激を受けやすく、気になるものを見つけると衝動的に動き出すことがある。
-
- ・食事について
 - 家では食べるが、給食は嫌がる。
- （入学時は食べなかった。1口毎の歌絵本で食べることができるようになっていたが、昨年の2月頃から再び拒否が始まった。）

給食時の様子

- 4月
- ・教員が一口大すくい食べさせる。
 - ・歌絵本なし。食べたら教員が本児の好きな歌を歌う。
⇒拒否が続いた。

- 6月
- ・給食にとろろをかける。(家と同じ方法で実施)
 - ・給食の一口スケジュールを提示。
 - ・ご飯を5口食べたなら歌絵本で遊べるルールを設定。
⇒変更当初は食べていたが、徐々に拒否が増えた。

【拒否行動】

食べたくない時は、差し出したスプーンを払いのける。
拒否が続くとスタイを外したり、離席しようとしたり、
机を蹴ったりする行動が見られた。

保護者の願い

- 食べられる物が増えてほしい。
- 食事を楽しんでもらいたい。

教員の願い

- 食べられる量を少しでも増やしたい。
- 食べて「美味しい」「楽しい」と感じてもらえるようになってほしい。

アドバイザーからの課題提起①②を受けて 学部全体で事例検討

課題提起①「何を目標とするか？」

→ まず食べる量を増やす。

課題提起②「そのための解決策は何か？」

→ 好子の特別感をアップさせる。

自分でスプーンを口まで運ぶ。

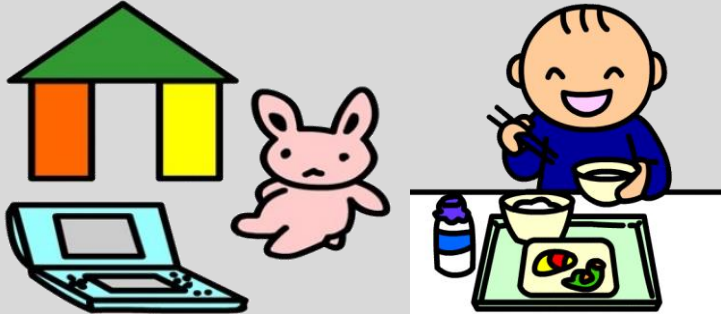
食べたい物を食べる。



介入① 歌絵本(好子)を給食に限定する

歌絵本のご褒美を・・・

Before



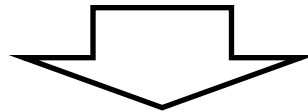
休み時間と給食時

After



給食時のみに限定

歌絵本の特別感アップ！！



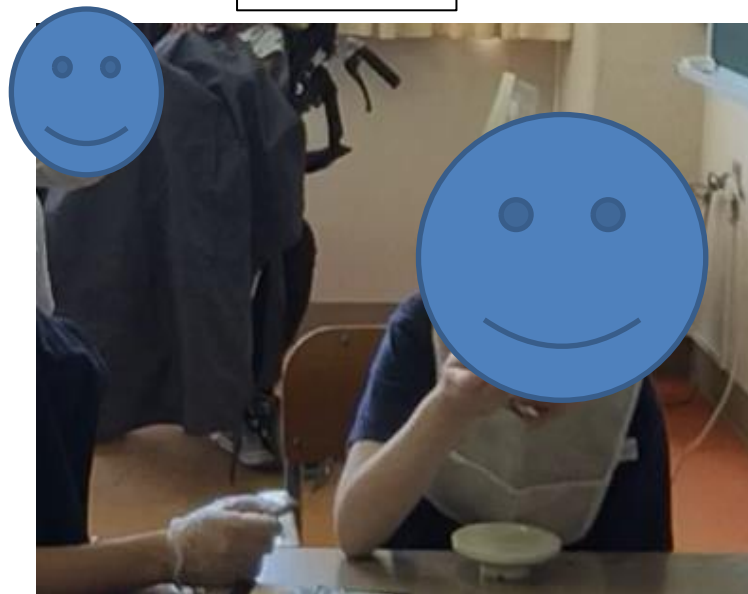
摂取量の変化はなし。
歌絵本をよく見る等の変化が見られた。


介入② 自分でスプーンを持って食べる

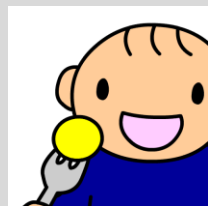
Before



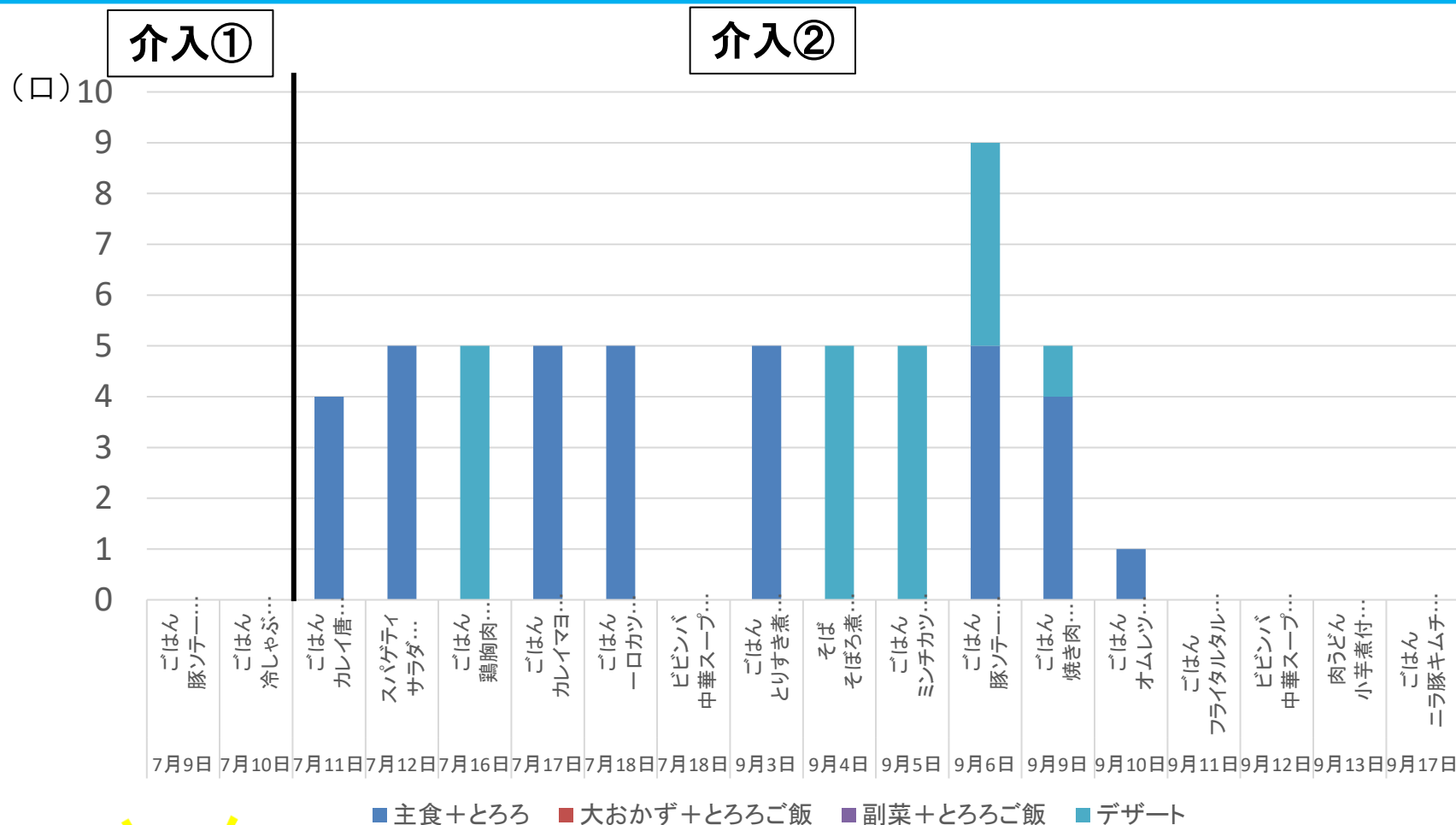
After



皿に置かれた  を自分で持って食べる。



介入②: 自分でスプーンを持って食べる



自発性アップ!

手で払いのける、机を蹴る等の行動ダウン

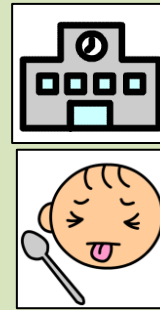
しかし、9月に入ると食べられない日が増えた。

介入③④ 食べる物をもっと好きな物にする

【介入③】



家で食べているものをもってきてもらう。



給食と同様に拒否

「もっと好きなものはないか・・・？」

【介入④】

咀嚼のしやすさ

OK

飲み込みやすさ

OK

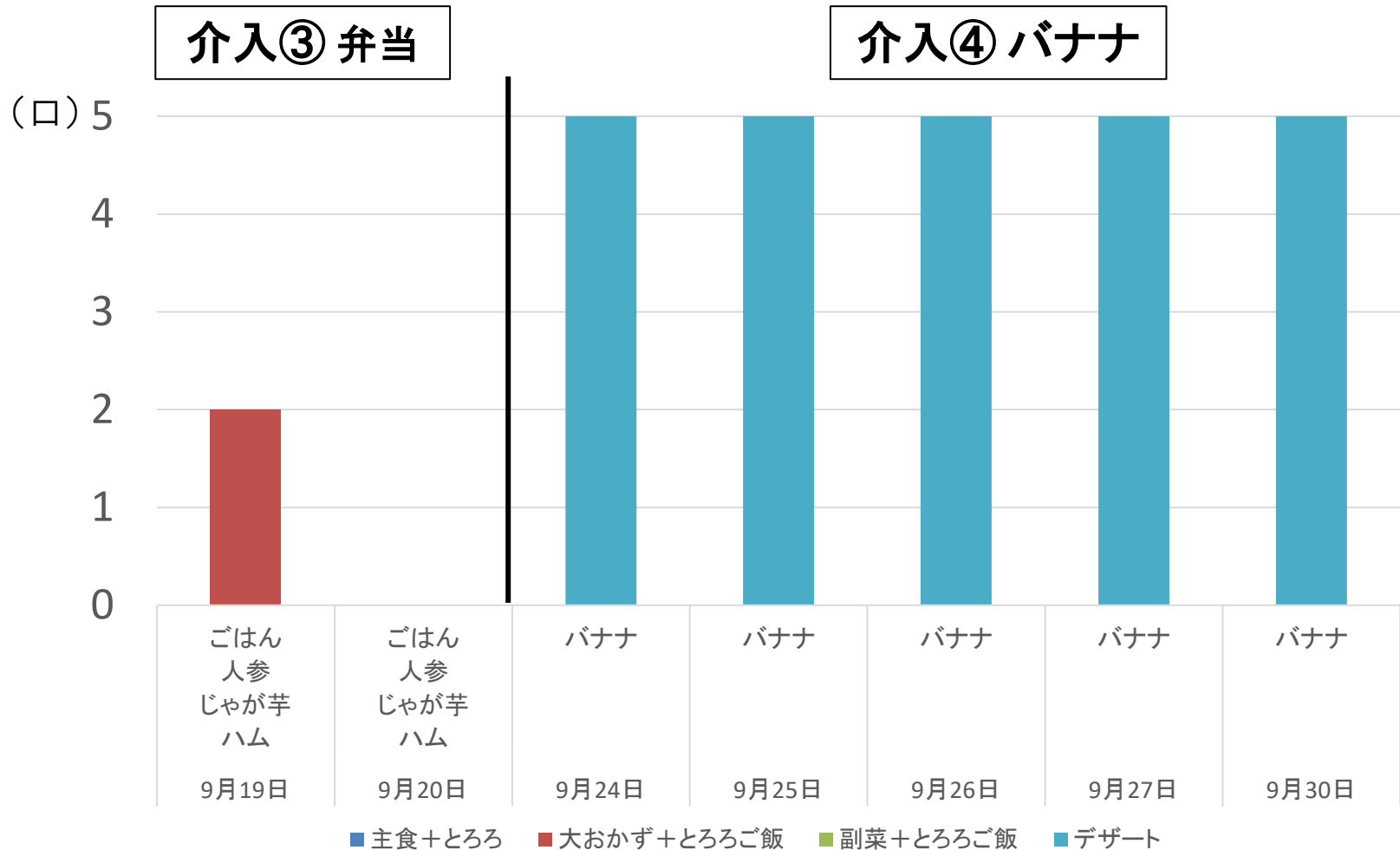
口までの運びやすさ

OK



バナナ

介入③④ 食べる物をもっと好きな物にする

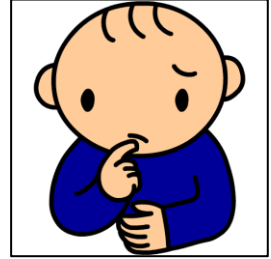


介入③では拒否が強かった。
バナナに変更後、毎日5口食べることができた。

クラスで話し合い① 摂取量をどう増やすか？

5口から食数を増やしたいが……

ご褒美が遠のいて意欲が減る？



⇒ ご褒美までを**5口→3口**に変更

⇒ **3口毎に歌絵本タイムを1分設定**

ご褒美までの間隔を短くして意欲キープ！

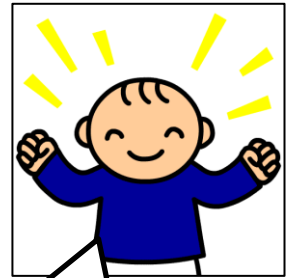
【介入④】バナナを5口食べる。



【介入⑤】バナナを6口食べる。

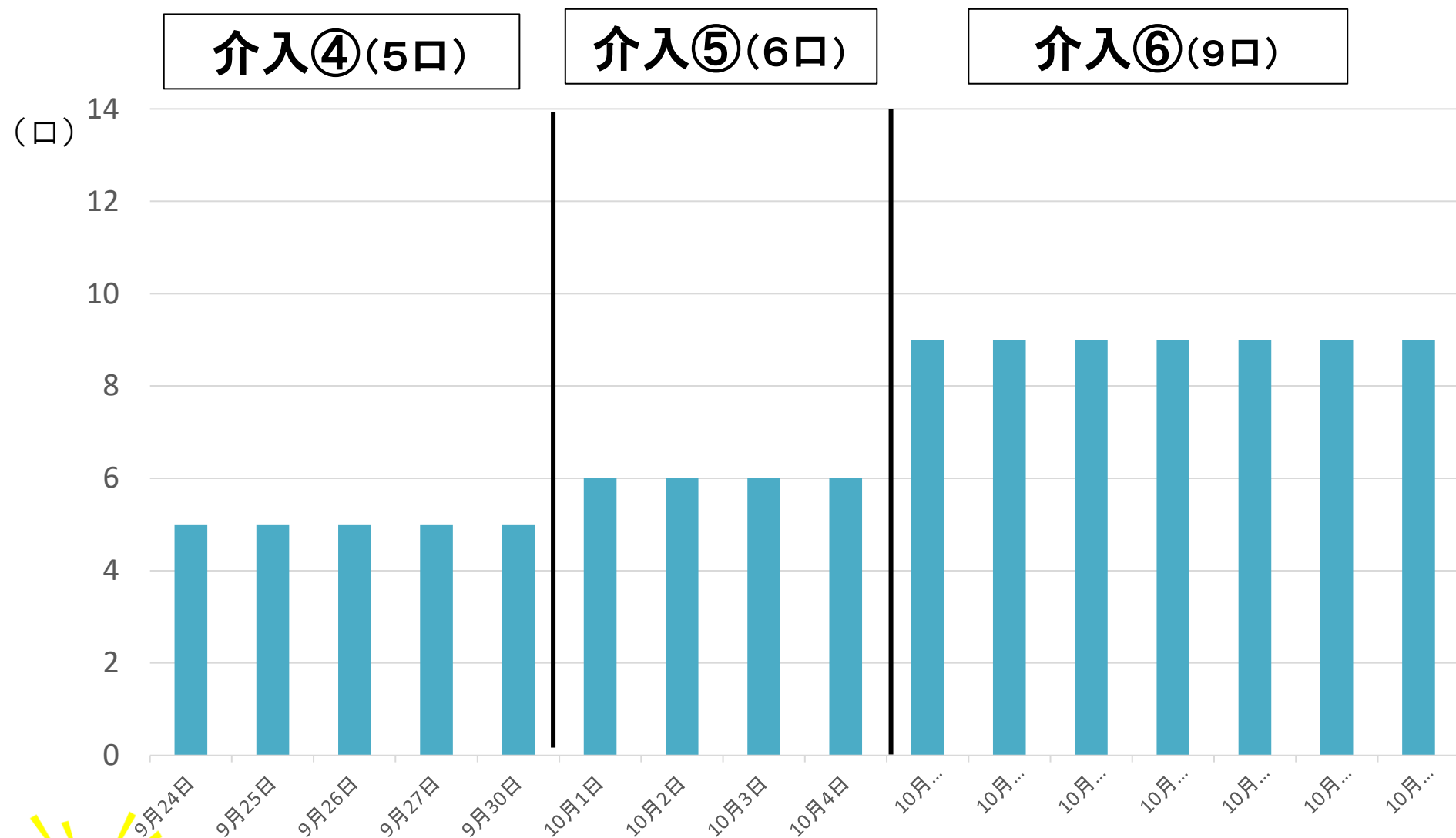


【介入⑥】バナナを9口食べる。



3口食べたなら歌絵本だ♪

介入⑤⑥ 摂取量を増やす



5口→9口食べられるように！（バナナ1本分）

クラスで話し合い②③ 食べる物を増やす

②「好子に近づくほど、意欲アップの傾向がある」

【介入⑦】最後の9口目を枝豆に変更。



食材は保護者と相談



食べられた!!



③「他の物を食べてほしい。バナナの摂取量も維持したい」

⇒ 3口ずつ増やす + 違う食べ物を追加する

【介入⑧】12口食べる。12口目をコーンに変更



【介入⑨】15口食べる。15口目をブロッコリーに変更



介入⑦～⑨ 食べる物と摂取量を増やす

介入⑦

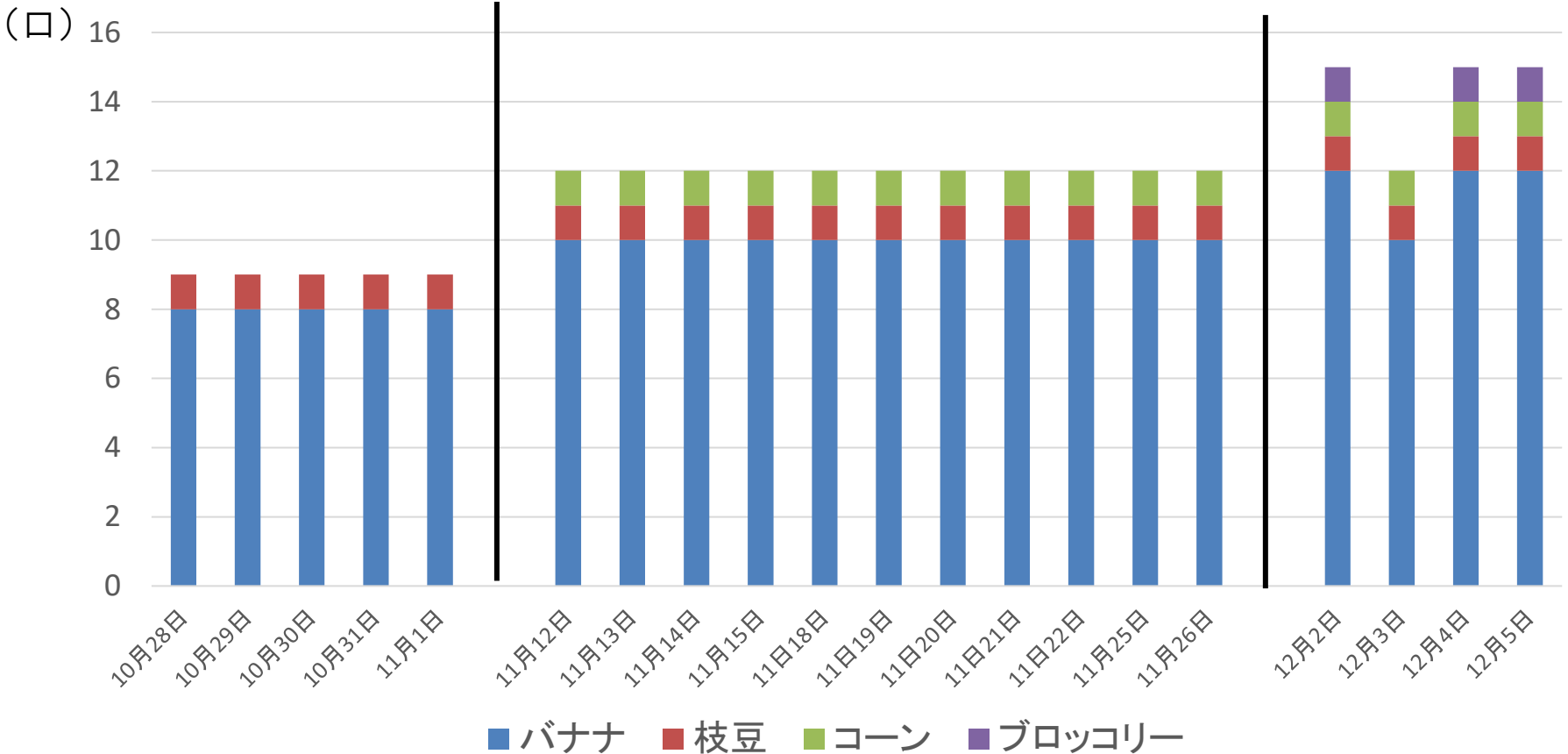
9口目を枝豆

介入⑧

12口目をコーン

介入⑨

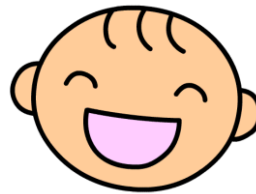
15口目をブロッコリー



枝豆、コーン、ブロッコリーも食べられた！
バナナの摂取量もキープ！

指導の成果

- ①摂取量を増やすことができた。
- ②自分でスプーンやフォークを口に運んで食べることができるようになった。
- ③成功体験を積むことで給食時にも笑顔が見られるようになった。



ここが 成功のポイント

①好きな物で意欲UP！

→本人の好みに合わせて食べやすい物を選び、成功体験を積めた。

②好子のタイミングの調整

→歌絵本で遊べるタイミングを工夫し、やる気を引き出した。

③保護者の協力

→食事の様子を見てもらい、進捗状況を共有することで、給食の停止や弁当準備等の協力を得られた。

④学部全体での取り組み

→クラスだけでなく学部全体での話し合い、多様な意見から新たなアイデアが生まれ、共通理解が深まった。